

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけ」チーム第2回会合議事概要

1. 日 時 : 平成28年9月7日(水) 13:00～15:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館6階623会議室
3. 議 題 :
 1. コーディネーターの互選
 2. 男女共同参画に向けた学校における取組について
 - ・小学校における取組
長野県中野市立日野小学校 教務主任 湯本 文洋氏
 - ・高等学校における取組
渋谷教育学園渋谷中学高等学校 副校長 高際 伊都子氏
 - ・大学等における取組
特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ 代表理事 堀田 真奈氏
 3. 自治体における事例収集(アンケート)について
 4. 意見交換

4. 出席者 :

(有識者議員)

飯田議員、大崎議員、権藤議員、千代田議員、林議員、室伏議員、山屋議員

(団体推薦議員)

田丸議員、浅野議員、矢嶋氏(降旗議員代理)、星議員、松本議員、海野議員、後藤議員、糸数議員、川口議員、温泉川議員、川野議員、村岡議員、葛西議員、功刀議員、金野議員、鳥澤議員、西立野議員、宮木議員、名取議員、小林議員、佐藤議員、山本議員

(外部有識者)

- ・長野県中野市立日野小学校 教務主任 湯本 文洋氏
- ・渋谷教育学園渋谷中学高等学校 副校長 高際 伊都子氏
- ・特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ 代表理事 堀田 真奈氏

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、華房 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、石橋 内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官、大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

○議題1について、チームコーディネーターの互選が行われ、徳倉康之議員がコーディネーターに選出された。続いて、徳倉コーディネーターより、大崎麻子議員が副コーディネーターに指名され、両者から挨拶があった。

○議題2の小学校における取組について、資料2に基づき湯本氏より発表があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・その後の理科実験はどう変わったか。
- 子供たちに自分たちの実験の様子をモニタリングしてもらったら、子供たち自身におかしいという気持ちが生まれ、男女平等について意識するようになった。
- ・家庭科においてはどうなっているか。
- 家庭科では、比較的、男女関係なく取り組んでいると思われる。ただ多少、男子・女子で、食べる人・作る人、という構図があるとは感じる、6年生に魚の解剖を授業でやったときは、女子は嫌がる傾向にあったが、女子だけのグループで魚の解剖をやったら、嫌がった女子も実際に取り組んだ。嫌がることを演じることが、メディア等を通じて、女子らしいという認識があると思われる。
- ・スウェーデンでは大工や料理、裁縫などにおいても、男女による取組姿勢の差はあまり見られないと思われる。小さい頃から男女平等であり、好きな人が好きなことをやる、という意識が根付いている。

○議題2の高等学校における取組について、資料3-1及び3-2に基づき高際氏より発表があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・LGBTについての取組は行っているか。
- LGBTの申告があった事例はないが、多様性の中でLGBTについて取り上げ、話し合いをしている。また、3年に1度くらいは卒業論文でLGBTをテーマにし、全校生徒にレクチャーしている生徒もあり、比較的LGBTを多様性の1つとして生徒たちも寛容にとらえられていると思われる。
- ・アメリカ大使館主催の女の子のためのリーダーシッププログラムにおける課題作文において、尊敬する女性を尋ねると、仕事も家事もこなして笑顔でいる母親を挙げる子が多かった。仕事に加えて家事をこなしている母親を尊敬するという傾向というのは、学校においても見られるか。
- 最近の子は、家族に対する想いが強く、両親や母親を尊敬する傾向が強い。都内は特に共働きの家庭も多く、子供たちにとっては母親が何でもできるスーパーウーマンに見えるようで、違う意味でジェンダーしばりを生む懸念がある。そのため、保護者には失敗談や悩んだことをお話いただくようお伝えしている。

○議題2の大学等における取組について、資料4に基づき堀田氏より発表があった。

○議題3について、事務局より、資料5に基づき自治体における事例収集のアンケート案についての説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・単なる事例ではなく、好事例を収集するのであれば、若年層に働きかけるにあたって、どのような工夫をしていて、どういう点がうまくいったのかをアンケートに記載したほうがよい。
- ・都道府県だけでなく、政令指定都市に対してもアンケートを実施するとよい。
- ・抱えている課題や問題点が地域によって異なると思うので、なぜそのような事業をしようと思ったのかという経緯や、問題点が可視化できるような項目を設けてはどうか。アウトプットしたときに、見た人が参考にできるようなものにしたい。

○議題４について、事前に配布したアンケートに基づき、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・子供たち自身には、男女共同参画に対する意識がそれなりにあるが、教職員の男女共同参画に対する意識は低いと感じる。教職員から生徒への伝え方にも課題があると感じており、教職員の意識を変えなければならない。
- ・お茶の水女子大学と筑波大学は連携協定し、女性リーダーが活躍するための基盤づくりに取り組む予定となっている。本チームのメンバーも大変よい活動をしているので、連携できれば効果が高いと感じる。
- ・教職員の中には、ジェンダー平等に対する意義を理解していない人が多い。また、LGBTは全体の８％いると言われており、１つの教室の中に１～２人はいると考えられるが、障害ととらえてはいけないという認識をすべき。
- ・指導要領も頻繁に変わるため、教職員も新たな知識を習得する等、負担が大きい。家庭内での教育も必要であると感じている。
- ・国立大学協会では、国立大学、公立大学、私立大学での協力について議論しているところだが、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学等が一堂に会して男女共同参画の現状がどうなっているか知る機会があるとよい。
- ・成功例をパッケージ化し、関係団体への仲介していただける仕組みがあるとよい。
- ・全業種の人達を集め、各業種の男女共同参画のロールモデルを掲示できるようなシンポジウムを中高生向けに開催できたらよい。キャリアを築く上で、仕事選びは重要であると考えている。

○最後に徳倉コーディネーターより、回収したアンケートや意見交換の内容を、今後のチーム活動の参考とする予定であること、今後のスケジュールについて、平成 28 年度中に会合を 2 回程度開催する旨の連絡を行った。

以 上